

乙女高原が好き！2302号

夏本番の乙女高原へ

コロナが感染症法2類から5類に引き下げられたことで、長く続いた行動制限が解除になりました。季節性インフルエンザと同等の扱いになるそうです。なんの制限もない夏は4年ぶりです。これから乙女高原では様々な花たちが可憐な姿を見せ始めます。夏本番の乙女高原へ、ぜひお越しください。

24回目の遊歩道づくり

5月10日（水）・21日（日） 記事：植原 彰

～事前の準備～

草原がうっすら緑色になってきました。「カンバ3兄弟」の中で一番早く芽吹くシラカバは木全体がほんのり緑色ですが、いよいよダケカンバとヤエガワカンバの芽吹きが始まっていました。私が駐車場に到着したときには、すでにロッジの窓が全開になっていました。三枝さんが早く来て、開けてくださったそうです。こうやって、たまに空気を入れ替えないと、廃館になったとはいえ、ロッジの建物が早く傷んでしまいます。

明後日の遊歩道づくりの準備のため山梨市観光課の担当者4人・山梨県峡東林務環境事務所県有林課の担当者3人・乙女高原ファンクラブの有志6人が集まりました。

まずはロッジ前のベンチで打ち合わせ。当日の天気は危ぶまれるので、できれば前日に実施するか判断したほうが混雑が少なく済むだろうということで、前日午後3時に判断することになりました。それから、本日の仕事内容を確認し、分担して仕事に取り掛かりました。

市の皆さんは物置内のロープを確認し、シカ柵をぐるっと一周点検してくださいました。冬の間凍結によって地面が持ち上げられてしまうことによって生じるドアの不具合も直していただきました。

県の皆さんとファンクラブの男性陣で3ルートでの遊歩道を分担して歩き、杭が使えるかどうかを点検しました。使えないと判断した杭には竹串を指して、目印にしました。作業後、最初に用意した竹串の数から残った竹串の数を引くと、必要な杭の本数が分かります。今年は新たに48本の杭が必要と分かりました。杭は市の予算で買ってくださいます。

ファンクラブの女性陣でロッジとトイレのそうじをさせていただきました。

早めに作業が終わりました。集まって情報共有をし、解散しました。とはいえ、みんなお弁当を持ってきていて、午後からは、それぞれの立場での仕事をしました。

私たち乙女高原ファンクラブのメンバーは、草原内に侵入してきた若木を伐ったり、外来種であるメマツヨイグサを抜いたりしました。草原の中は、キジムシロやミツバツチグリの黄色い花、フデリンドウの薄青紫の花がとてもきれいに咲いていました。

～そして本番～

5月14日は前後も含めて雨の予報だったので、前日13日に中止・延期の決定をしました。21日は朝からいい天気でした。私は皆さんより一足先にロッジ駐車場に着いて、準備を始めました。倉庫から杭やロープを出し始めたら、こんな早くから古屋さんが来てくださいました。古屋さんには「ツツジのコース」の杭やロープを軽トラで運んでいただきました。「ツツジのコース」が一番遠いので、荷物の持ち運びが大変だからです。

9時になったら、スタッフの打ち合わせを始めました。今日の作業は山梨県・山梨市・乙女高原ファンクラブの共催（協働）作業です。今日1日の流れや留意点を確認しました。打ち合わせが終わったら、参加者の受付を始めました。受付が終わった人からロープの結び方を練習してもらいました。「とっくり結び」という、簡単にはほどけない結び方です（マスターしておくとう便利です！）。

9時半から全体で打ち合わせを行いました。本来ならここで「はじめの会」をし、主催者あいさつなどをしますが、延期の場合は省略することに



受付後、ロープ結びの練習

なっていました。ですが、「はじまり」の「けじめ」をしっかりとつけたかったし、全体で注意すべき点を共有したかったので、打ち合わせのみを行いました。また、この場で、(株)田丸様から御寄附をいただきました。今年で20年目!! もう20年も毎年、御寄附をいただいております。ありがたいことです。

全体打ち合わせが終わったら、班ごとに打ち合わせをして、出発してもらいました。今年は「延期」になってしまったので、参加者が30人と、例年のほぼ半分。その人数でいつもと同じだけの作業をしなくてはならないので、大変でした。杭を一本一本、大きなハンマーで打ち直します。

ロープを延ばして行って、はじから杭に結んでいきます。疲れて、ふと足元に視点を落とすと、たくさんのサクラスミレやフデリンドウの花。癒されます。また、レンゲツツジの蕾も大きくオレンジ色になってきました・・・と思っていたら、一部、もう咲き始めていて、びっくり。早すぎます。森の中からはキビタキやツツドリ、アオバトの声が聞こえてきます。

「ツツジコース」のロープが大幅に足りなくなりました。2年連続です。ミステリーなんかではなく、何か構造的な課題があるのだと思います。たぶん前年の草刈ボランティアでロープをしまう時に。反面、こういった作業で「間違い」や「過不足」が生じるのは、ある意味、やむをえないので、正確さを求めすぎてギスギスしてしまうより、むしろ、「ああ足りなかったのねー」とおおらかに構えた方がいいとも思います。とはいえ、本部まで足りないロープを取りに行くのは、まったくもって一苦労だったと思います。来年は、2年連続して足りなかったことを念頭に、「ツツジコース」には少し多めに予備ロープを準備しようと思います。

11時過ぎには作業が終わったので、「終わり」の「けじめ」を付けました。「無理ふり」して挨拶をお願いした方々、申し訳ありませんでした。

片付けを済ませ、有志で楽しくお弁当を食べました。お弁当を食べたのは10人でした。ここで反省会をしました。

- ・ロープの結び方は「ゆるく」ではなく「普通に」でよいのではないかな。
- ・下準備の折りに杭を打ってしまったほうがいいのか。

といった意見が出ました。遊歩道に出席された方は、ご意見ご感想等をお寄せくださいね。来年の作業に生かします。天気がよかったせいか、乙女高原にはたくさんの方が訪れ、さっそく遊歩道を歩いていました。お花のパフレットを配ったりしました。

午後からは、10人で草原内の若木を刈り取る作業を2時間ほど行いました。時々、この作業をしないと、草原が森に飲み込まれてしまいます。ちょうど今は、レンゲツツジはまだ葉を出していませんが、シラカバやダケカンバ、ドロノキ、ミズナラなどは芽吹いています。「緑の葉が出ている」のを目印に木を伐ればいから、見分けるのが割と楽でした。

と同時進行で、ロープにいろいろなカードを結束バンドで取り付ける作業も行いました。全部で80枚くらいです。咲いている花を紹介するカード、「遊歩道に入らないで」「花や虫などを取らないで」という注意喚起のカード、現在地を示す地図カードなどです。今年は新機軸としてセルフガイドとして使える「自然観察カード」も試作してみました。たとえば、「枯れてしまったウラジロモミの木が、いつ枯れてしまい、以前はどうだったのか」などを教えてくれるカードです。乙女高原に行ったら、ぜひ探してみてください。

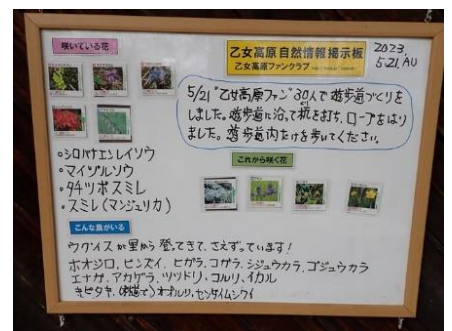
あーあ、今日はとても疲れしました。



(株)田丸グリーン基金さんより



草原内の看板を探してね!



ロッジ玄関の「自然情報」もぜひご覧ください。

ヤマアカガエルの産卵調査

産卵調査① ～第1回自然観察交流会を兼ねて～

4月1日(日) 記事: 植原 彰

朝9時、道の駅に集まったのは7人でした。分乗して、途中下車を繰り返しながら乙女高原を目指しました。**【ポイント1 林道入口湿地】**カエル卵はありませんでした。ここは、ある年から「水溜まりの湿地」から「流

れのある湿地」になってしまいました。こうなると、もうヤマアカガエルは選びません。

湿地には空色のシジミチョウと口がやけに長いアブ・ビロートツリアブがたくさんいました。

【ポイント2 カタクリ】リスがまつぼっくりを食べた痕が先週より増えて7つになっていました。この場所は頻繁にリスが来ているようです。カタクリは蕾1、咲き始め1。エゾアオイスミレも咲き始め。でも、ヒナスミレは満開でした。マメザクラはまだ蕾。ヒガラの声やミソサザイの声がしました。

【ポイント3 カエル池】少なくなっている水たまりにヤマアカ7腹。2腹は完全に干上がっているところにありました。日陰の水たまりにはヒキガエル1腹。静かにしていると、タゴガエルの声が聞こえます。

ここにも、空色のシジミチョウがいました。おそらくさつきと同じです。シジミチョウはヤマトシジミによく似ています。でも、ヤマトシジミによく似た空色のシジミチョウって、じつはいっぱいいることは知っていました。また、ヤマトシジミの食草(幼虫の食べる草)はカタバミなのですが、この周辺でカタバミをみたことはないし、ありそうもないです。なので、何て名前のチョウなんだろう??と毎年、この時期になると不思議に思っていました。今日は大勢で来ているし、みんなで観察すればわかるかもしれないと思い、捕虫網で捕まえて、一時的にチャック付きビニール袋に入れ、図鑑とにらめっこしてみました。すると、「この蝶はこの時期に高尾山でも見られる」という情報もありました。どうもスギタニルシジミというみたいです。説明を読むと「トチノキやミズキが食草」とありました。合点がいきます。捕らえたチョウはもちろん、放してやりました。



ヒナスミレ

ハシドリコロの花がきれいでした。ガビチョウの声がします。ここでキブシの雄株(雄花)と雌株(雌花)の違いを教えてくださいました。でもなあ・・・雄花にもめしべがあるし、雌花にもおしべがあります????

【ポイント4 カツラ】大きなカツラの木のある沢です。カツラの芽吹きはまだでしたが、ハナネコノメは満開、ツルネコノメとコガネコノメも咲き始めていました。キバナノアマナも咲いていました。

【ポイント5 焼山峠】林道脇の池に16腹のヤマアカガエルの卵。うち2腹は先週にも見えていますから、この1週間間に産んだのは14腹です。奥の湿地には2、広い湿地には3腹ありました。先週セットしたセンサーカメラを回収。動画を確認しましたが、シカばかりが映っていて、肝心のカエル産卵シーンは映っていませんでした。

ここからが、モニタリング1000の調査ポイントです。

【ポイント6 木道湿地】歩いていたら、おっチョウが止まりました。「あそこですよ」と言っても分かってもらえません。チョウが翅を立てて止まった時に見える面は枯れ葉そっくりだからです。翅を開いてくれないかな、そうすれば、翅の内側のきれいなブルーの太いラインをみんなに見てもらえるのに・・・。待っていましたが、翅を開くことはありませんでした。ルリタテハです。

この湿地は広い水たまりといった感じだったのですが、これも何年か前から水脈筋がはっきりしてきて、今は平らな土地に何本かの川が流れているという感じになってしまいました。こうなるとヤマアカガエルは産卵場所として選ばないかもしれません。卵はありませんでした。

【ポイント7 木橋湿地】谷地坊主が天然記念物になっている湿地です。カエル卵なし。

【ポイント8 梨高湿地】その昔、山梨高校の寮があって、その水源地として使われていた湿地です。例年、最後に雪解けが見られ、産卵も最後にみられる場所です。カエル卵なしでした。

こんなにいっぱい道草をしたので、乙女高原に着いた時は、もうお昼をまわっていました。ロッジ庭のベンチでみんなでお昼を食べてから、草原内を歩き回りました。

てっぺんでヒメツチハンミョウのメスが地面を歩いていました。ツノハシバミの雌花が咲き始めていました。枝から垂れている雄花の花穂はブラブラして、指でつつくと黄色い粉(花粉)がモワッと出るものもありました。まだまだ春はこれからです。

(観察の様子は角田敏幸さん作成のYouTubeでもご覧いただけます⇒)



産卵調査② ～カエルの産卵確認できず～

4月17日(月)

記事: 植原 彰

前日の4/16がヤマアカガエル産卵調査の日だったのですが、地区の行事等で来られない人が多く、結局、今日に調査を延期しました。風が強くて気温は低め。手袋が必要なほどでした。立ち寄ったところはどこも新しい卵はありませんでした。金峰山の肩にはまだ少し雪が見えましたが、まわりは春、春、春でした。

林道では走り始めはヤマブキ満開、で登るにつれて蕾が多くなりました。モミジイチゴも咲いていました。夏が楽しみです。林の中ではイタヤカエデの明るい黄緑が目立ちます。木全体に花が咲いている感じです。

柳平の先に行くと、石垣の間にセイヨウタンポポの花。見上げると、まだバッコヤナギの黄色い雄花が目立っていました。焼山で観察していたら、地面の落ち葉にコマルハナバチの女王が止まりました。マルハナバチがこんなにじっとしているのは珍しいです。だから、写真を撮りまくりました。後で写真を拡大して見ると、女王の体は黄色い粉だらけ。バッコヤナギの花を訪れたに違いありません。

さて、ここで、私はヤナギに謝らなくてはなりません。ヤナギの花って花びらが無いので風媒花とばかり思っていました。ですから、2008年3月、まだ周りは雪ばかりなのに、草原の大きなダケカンバの洞に巣を作ったミツバチたちが盛んに巣から出入りし、黄色い花粉団子を付けているのを目にしたので、バッコヤナギの花粉を集めていたんだろうとは推測しましたが、あくまで花粉だけと思っていました。今回、コマルハナバチの女王が花粉だらけなのを見たのですが、「冬眠から覚めたばかりの女王は、花粉より蜜が欲しいはず。なのに、ヤナギの花じゃ期待外れだったんだろうなあ・・・」と思っていました。ところが、調べてみると、ヤナギは虫媒花で蜜と芳香があるそうです。だったら、コマルの女王はバッコヤナギの花で満腹になり(?)大満足だったはずです。だとしたら、15年前に見た雪の中のミツバチたちも、雪の中というリスクを冒してまで蜜が欲しくてバッコヤナギの花を往復していたんでしょうね。

今度、バッコヤナギを見たら、匂いをかいで、蜜を舐めてみなくちゃ!! でも、バッコヤナギの花って、木の上のほうなので、なかなか近くで見られないんですよ。

話を元に戻しましょう。ロッジの庭にシカの足が置いてありました。だれが置いて行ったんだろう、キツネかな。骨をよく観察すると、関節がどうなっているかとか、どう動かくかとか、ひづめがどんなふう骨とつながっているかとか分かって、おもしろかったです。足の一つの関節のちょっと上に、後ろに飛び出ている骨(?)がありました。なんの骨か気になったので、あとで調べて見たら、シカの「かかと」でした。ヒトでも、「かかと」って、ひざから足先のラインより後ろに出ていますよね。そこを土につけて踏ん張るわけですが、シカの「かかと」って、人と違い、足のかなり高いところにあるんだと思いました。

草原ではキジムシロが咲き始め。ヨモギ頭では、ミツバツグリが咲き始めでした。両方とも黄色い小さな花です。乙女の春は黄色から・・・ですね。

枯れ草ばかりの草原で、足元から瑠璃色のチョウが飛び立ちました。スギタニルリシジミでしょうか。フユノハナワラビの葉が黄ばんできました。マメザクラの蕾が少し大きくなっていました。ロッジ道脇にセイヨウタンポポとタチツボスミレが咲き始めていました。

帰りの林道ではミツバツツジが満開でとてもきれいでした。カスミザクラでしょうか。ピンク色の花が咲き始めていました。



【観察記録】

賑やかにない始めました

4月23日(土) 記事: 植原 彰

林道の道脇にヤマブキやモミジイチゴの花がきれいです。セイヨウタンポポがアスファルトのすきまから花を咲かせています。ハルザキヤマガラシやマムシグサが咲き始めていました。

林道入口湿地にカエル卵なし。カエル池は完全に干上がっていて、カエル卵なし。奥の方、大きな岩の下はジメジメしていますが、カエル卵はありません。そんな環境になってしまいましたが、タゴガエルの声が聞こえてきました。

ウグイス、ヒガラ、ミソサザイ、そしてセンダイムシクイの声を聞きました。センダイムシクイはまだ渡って来たばかりで、囀りの練習中みたいでした。この鳥の「聞きなし」は「焼酎一杯グイーッ」で、本当にそう聞こえるのですが、この時はそうは聞こえず、「メチャクチャいっばいグイーッ」と聞こえました。「オレ好みの聞きなしじゃん!」と思い、吹き出しちゃいました。

カエデの花が目立ちましたよ。ヒトツバカエデの花が咲いてる!と書いて写真を撮ったのですが、帰って図鑑で確認したところ、チドリノキでした。チドリノキの葉はどうみてもシデの仲間の葉のように見えます。葉っぱがカナダの国旗のようなカジカエデの赤い花、葉っぱがゴワゴワした感じのアサノハ(麻の葉)カエデの花。同じカエデの花ですが、こんなにも多様なのかと思います。

ウラジロモミ植林地の林床では、もうヒメイチゲとコチャルメルソウの花が咲いていました。コチャルメルソウの花はNHK.Eテレ多田多恵子さんの「趣味ドキッ! 道草さんぽ・春」にも登場しましたね。「花びら1枚1枚が魚の骨みたい」という例えでしたが、私には花全体でアンテナみたいに見えます。きっと夜な夜な宇宙人と交信しているに違いありません。

焼山のあたりは、ちょっと見、枯れ草枯れ木ばかりの冬景色ですが、足元ではたくさんのお花が咲き、木々の芽がほころび始めています。タチツボスミレ、ミヤマスミレ、ヒナスミレ、エイザンスミレ、アケボノスミレ。スミレといってもいろいろな種類があります。また、同じ種類でも、花の大きなもの、花の色が違うもの、葉の形がビョーに違うもの、葉に「斑(ふ)」が入ったものなど、いろいろなので、「なんだ、またタチツボか」と思うことなく、次から次へと時間が経つのを忘れて観てしまいます。



カジカエデの花

木々の芽吹きも、赤っぽい、シルバーに輝くものなど、いろいろです。同じ緑でも白っぽい、黄色っぽいなど、いろいろです。遠くから見ると、山が、木々の芽吹きのいろいろな色のパッチワークになっています。この時期の森を「山笑う」とか「萌える」と表現した私たちの先輩たちの感受性ってステキだなと思います。葉があつた小さな冬芽の中にどんなふうにも格納されていて、どんなふうにも展開していくのかも楽しいですよ。本当は一つの芽をずっと見続けるべきなのでしょうが、芽によって発達段階が少しずつ違うので「ああ、最初はこうで、次にこうなって、そしてこうなっていくんだね」と想像がつかます。ぼくの推しはオオカメノキの芽吹きです。

焼山の湿地にも新しいカエル卵はありませんでした。ここでも広い湿地は干上がりつつありました。今年は冬の雪が少なかったし、春先の高温でどんどん雪解けが進んでしまい、夏の水不足が心配です。

草原は、キジムシの花盛りでした。ビロードツリアブや小さくて痩せた体形のモモブトカミキリモドキがいっぱい来ていました。フデリンドウも咲いていましたよ。

ツノハシバミの雌花のその後が気になって観察したのですが、芽吹いたばかりの小さな葉の赤ちゃんにまぎれて、小さなハムシが交尾していました。たぶんおんなじハムシの交尾シーンを焼山峠のツノハシバミでも発見しました。きっとこのハムシとツノハシバミはとても深い関係にあると思います。ネットや図鑑『ハムシハンドブック』で調べましたが??です。一番それらしいのはズグロキハムシ。でも、「食草はイヌシデ、トサミズキ」とあり、ツノハシバミとは書いてないんですよ。ハムシの名前調べは宿題です。



コマルハナバチの女王

バッコヤナギの高いところに咲いた花にコマルハナバチの女王が来ていました。双眼鏡でじっと見たのですが、蜜を吸っているような、そうでないような・・・。花がある枝が高すぎて、実際になめて蜜を確かめることはできませんでした。

カエル調査です。木橋湿地は古い卵も見当たらず、橋南の産卵場所ではオタマが泳いでいました。新卵なしです。梨校湿地は水がだいぶ少なくなっていました。シカのぬた場で新卵を2腹発見しました。卵の古さから、新しい卵というより、前回見落とししたものだと思います。木道湿地では、搜索範囲を広めましたが、卵なしです。ところどころ水たまりはありましたが、カエルが卵を産むには、水の流れが強すぎると思いました。

帰りの林道では、ミツバツツジとヒカゲツツジの花がきれいでした。

【観察記録】

涼を求めて乙女高原へ

5月18日(土) 記事：植原 彰

今日は勝沼で34.9℃だったそうですね。あまりにも暑い!ので、乙女高原に逃れることにしました。

林道ではミズキやミツバウツギの白い花が目だっていました。それだけではありません。ヤマツツジの赤、フジの紫、トウゴクミツバツツジの赤紫と、色とりどりです。綿毛が宙を飛んでいます。バッコヤナギのたねの旅です。標高差があるので、柳平の近くではまだヤマブキが咲き残っていますが、トチノキの花が見られるのは山口近くだけです。

草原に着きました。緑が一段と濃くなってきました。シラカバは緑が濃くなり、ダケカンバは芽吹いた直後の淡い色で、ヤエガワカンバは同じく芽吹き直後なのにちょっと赤味を帯びた色です。もうすぐこれら微妙に色の違う緑のパッチワークは、真夏の同じような緑色になってしまうことでしょう。

今回は虫たちがいっぱいでした。車を降りたら、まずオオミズアオに遭遇。なんとというきれいな空色、そして天女のようなフォルムなんですか。キマダラヒカゲにも会いました。遊歩道を歩いていて、なんか小さなガ?チョウ?がミズナラの芽吹いたばかりの葉に止まったなと思い、近づいて見ようと思ったら、逃げられてしまいました。少し待っていたら、戻ってきたので、今度は動かないでそっと観ていました。そしたら、そのチョウ・ミヤマセセリはお尻をぐっと曲げて、葉の陰に卵を産もうとしていました。また、飛んで行ってしまいましたが、少し待っていたら、戻って来たので、今度はゆっくりゆっくり手を動かしてカメラを構え、産卵シーンを動画撮影。一応、成功しました。



マイヅルソウ

近くのヤマハンノキの葉はポツポツと穴だらけ。おそらくその犯人の虫たちがいっぱいいたかっっていました。そうそう。ギンイチモンジセセリにも出会いましたよ。乙女高原に居る間じゅう、エゾハルゼミのミョーケンミヨミヨミヨ・・・という声が響いていました。

サクラスミレがいっぱいです。一株で10個も花を付けている株をいっぱい見ました。エイザンスミレはもう咲き終わりでしたが、代わりにマンジュリカが咲き始めていました。タチツボスミレは相変わらず至る所で目につきます。森のコースではシロバナエンレイソウが可憐な花を咲かせていました。なんとマイヅルソウがもう咲き始めていましたよ。

フデリンドウもいっぱい。黄色い花はキジムシロからミツバツチグリにバトンタッチの時期みたいです。
今日はツツドリ、コルリの声を今年初めて聞きました。コルリはいろいろなところで聞きます。増えたのかな？
帰ってきたら家でホトトギスの声も聞きました。

湿地も歩きました。サンリンソウが満開です。シロバナノヘビイチゴやニョイスミレもきれいです。水が流れている土の中からは「グエッ」というタゴガエルの声が聞こえてきます。サナギイチゴも咲き始めていました。谷地坊主が坊主頭のとっぺんだけ緑色で、1年で一番かわいい時期です。もう少し経つと、ぼさぼさ頭になってしまいます。

さて、前々回、イチヨウランの蕾を見つけて、花が咲くのを楽しみにしていたら、前回、その株がありません！ん？食べられた？盗まれた？と、なんだか嫌な気分。それでも、その近くに蕾を付けている株がまた見つかったので、花を楽しみに、今日、行って見ました。そうしたら、その花もなくなっていました。コケのじゅうたんに穴が開いていたので、誰かが掘り取って、持ち去ってしまったのでしょうか。

生き物はなんでもそうですが、その生き物だけでは生きていけません。必ず周りの生き物とつながりながら、生きています。私は、その場に咲いているからこそ、花は美しいと思うのですが、それは、そんなつながりがあるからこそです。持ち去ってしまったら、そのつながりが絶たれてしまいます。

私はいまだにイチヨウランの花に虫が訪れるのを見たことがありません。イチヨウランがどんな虫とつながりを持っているかをその場で確かめたいのに、その前に、無くなってしまうのが、残念でなりません。



イチヨウラン。もし咲いていたら

【自然観察交流会】

予定変更・・・でも

6月3日（日）記事：鈴木 辰三

6月3日は恒例の黄色いスメレ観察会。ところが前日から台風が日本の南岸を通過し大荒れの天気でした。集合時刻には雨もやみましたが、参加者は3名。天気は回復に向かう予報だったものの、相当量の雨が降ったことや各地で通行止めの情報もあり、黄色いスメレの観察は断念。いつも通りの乙女高原観察に予定変更です。

最初に通称カエル池に寄りました。3年前のボーリング調査から枯渇状態が続いています。この日は雨のため満水でしたが、ヤマアカガエルの貴重な産卵場所で、今後が心配です。

次にサワラ林で途中下車です。昨年、杉咲花主演のNHKドラマ「プリズム」のロケ地になったそうです。沢に沿って斜面を登ってみると、樹齢100年を超えるサワラの大木と苔むした巨大岩のコラボが幻想的な空間を創り出しています。よくこんな場所を見つけたものだと感じます。

トチの大木の水場まで来ると青空が顔をのぞかせ、ヒガラ・ホオジロ・ウグイス・ホトトギス・アオバトなど鳥たちのさえずりが賑やかになり始めました。トチの花が真っ白に樹冠を覆いとてもきれいです。辺りでは山菜として人気のミズ（ウワバミソウ）の群生や、種を飛ばしたあとのネコノメソウが観察できました。ネコノメソウの仲間は雨滴散布といって雨が降った時に種を飛ばすそうです。雨を利用するなんて驚きですね。

寄り道をしながら柳平にたどり着くと、乙女高原に向かう林道はなんと通行止め。

第2の変更をせまられ、ダムから見晴台まで続く遊歩道を登って乙女湖を一周することにしました。このときにはすっかり天気も回復し、五丈岩がくっきりと見えてきました。シロバナヘビイチゴの群生を横目に約400段の階段を上りきると、エゾハルゼミがうるさいほどの大合唱です。

その後はヤマフジやミヤマザクラの花、マタタビやサルナシの蕾、少し赤みを帯びてきたカエデ類のプロペラのような実などを観察しながら焼山峠まで下ります。スメレの中では遅咲きのエゾノタチツボスミレも咲いていました。

途中で最も美しい蛾とも言われるオオミズアオが枝先にじっとしているのを見つけました。よく見ると昨日の大雨のせいか羽がボロボロに傷ついています。嫌われることが多い蛾の仲間ですが、この日はキンモンガやコトラガなど模様の美しい蛾に出逢いました。

柳平の手前まで歩いてくると湖畔遊歩道の入り口があります。普段は車で素通りですが、「歩いてみようか？」と、またも予定変更です。

やや湿った遊歩道にはクリンソウが点在して咲いていました。また、水辺を好むサワグルミが小さな実をつけて林を作っています。そして思いもよらずフタバアオイの群落を発見することもできました。すでに花期は過ぎていましたが、徳川家の家紋のモチーフにもなった葉が一面に生い茂っています。是非花の季節に訪れたいチェックポイントです。

遊歩道途中のベンチで乙女湖を見下ろしながら昼食を食べて帰路へと向かいます。黄色いスメレも乙女高原もたどり着けませんでした。普段通らないルートは新鮮で有意義な一日となりました。



オオミズアオ

TOPICS

◆植原さん、「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰を受賞

『「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰』は、環境省が1999年より実施している表彰制度です。この賞では、自然環境の保全に関する顕著な功績があった方もしくは団体を表彰し、これを讃えるとともに、自然環境の保全について国民の認識を深めることを目的として実施されています。
令和5年度、乙女高原ファンクラブ代表世話人の植原さんが受賞されました。おめでとうございます！

～表彰イベントの論壇者紹介文から～

【保全活動部門 受賞】植原 彰（NACS-J 理事／乙女高原ファンクラブ代表世話人）

山梨県生まれ。学生時代に自然観察指導員講習会を受け「自分が進む道はこれだ！」と観察会活動を始める。就職後も「やまなしナチュラルリストの会」や「ノラやまなし」を設立。自然かんさつから始まる自然保護活動を続けている。自分のホームグラウンドは乙女高原。2001年春には「乙女高原ファンクラブ」を設立し、マルハナバチの観察会や乙女高原案内人の養成、草原保全のための草刈りボランティアなどに取り組んでいる。

◆町の駅やまなし常設展示

JR 中央線・山梨市駅北口にある「街の駅やまなし」のスペースをお借りして、乙女高原展を開催しています。掲示板1枚と長机1脚だけのミニミニ展ですが、毎回テーマを決めて1～2か月程度で展示替えしてきました。ただいまシーズン37「乙女高原のマルハナバチ」展を開催中です。山梨市駅近くにおいでの際は、覗いてみてください。なお、乙女高原で撮った写真、乙女高原をテーマにしたオリジナル作品（絵画、詩歌）等ありましたら、ここで展示させていただきます。展示の方法、展示スペース等については要相談です。



◆山梨市の職員や議員の皆さんが木柵のペンキ塗り

5月30日、高木山梨市長さんをはじめ、職員の皆さん、市議会議員の皆さんが、草原と道路の境にある木柵にペンキを塗っていただきました。塗る前に杭1本1本をきれいにみがいてから、ていねいにこげ茶色のペンキをぬっていただきました。ベンチにもペンキを塗ってくださったんですよ。ありがとうございました。



◆夏の活動予定

●第21期マルハナバチ調べ隊

マルハナバチ個体数の動向を知ることは、いわば乙女高原の健康診断。未来の乙女高原のために大切な活動です。

～盛夏編～

日時：8月5日（土）10：00～14：30頃

集合：乙女高原グリーンロッジ

持ち物：弁当・水筒・筆記用具・腕時計やタイマーなど時間がわかるもの

～初秋編～

日時：9月2日（土）10：00～14：00頃

*場所・持ち物などは盛夏編と同じです。

●乙女高原案内活動

毎年恒例になった乙女高原案内活動。花盛りの乙女高原でみなさんとお会いすることを楽しみにしています。10時から15時ころまで、ロッジ前のベンチでお待ちしています。是非、お声かけください。

なお、乙女高原案内人でこの活動に賛同してくださる方は是非ご参加ください。1日だけ、半日だけでも結構です。事務局までご一報ください。



イラスト 高槻成紀さん

夏の案内人活動日

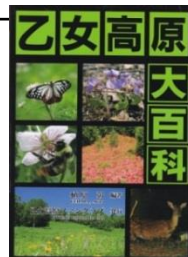
- ① 7月22日（土）
- ② 7月23日（日）
- ③ 7月29日（土）
- ④ 7月30日（日）
- ⑤ 8月5日（土）
- ⑥ 8月6日（日）

●今号は編集を鈴木辰三、校正を井上敬子さん、植原 彰さんが行いました。今後、山梨市社会福祉協議会の印刷機をお借りして芳賀月子さんと三枝かめよさんが印刷をし、山本和美さんに発送作業をしていただく予定です。約250通がこうして皆様のもとに届けられます。

乙女高原ファンクラブの刊行物

乙女高原とファンクラブ11年間の集大成『乙女高原大百科』

(A5判 602頁)草刈り開始後から配信している乙女高原メールマガジン 11年間 268号の中身を編集したら厚さ3cmの本になってしまいました。一部カラー。希望者には実費でお分けします。1冊2,000円、送料は1・2冊なら370円。欲しい方は郵便振込で1冊なら2,370円送金してください。



乙女高原インタープリテーションのテキスト『乙女高原案内人 誕生と成長の記録』→在庫切れ

乙女高原フィールドガイド シリーズ

欲しい方は事務局までご連絡ください。



フィールドガイドIII スミレの観察のおともに『乙女高原のスマレ・ウォッチング』

(A3判両面カラー)乙女高原では、なんと18種類ものスマレを観察できます。このフィールドガイドでは乙女で見られるスマレたちのプロフィールを紹介するとともに、スマレ観察のポイントをていねいに解説しました。

フィールドガイドII マルハナバチの観察と調査のおともに『マルハナバチ ウォッチング改訂新版』

(A3判両面カラー)マルハナバチの生態、ファンクラブで行っている調査、乙女高原で見られる6種(+2種)のマルハナバチの見分け方をコンパクトにまとめました。2015年に改訂版を出しました。

フィールドガイドI 春から夏にかけて咲く草花のガイド『乙女高原のお花たち』

(A3判両面カラー)フィールドガイド第1号。春から秋に咲く47種類の草花を写真つきでコンパクトに紹介。草丈表示と草花の一言コメントが「分かりやすい」と評判です。2013年6月に第3版発行。

■乙女高原ファンクラブの普通会员になりませんか？

『数は力』という側面もあります。ファンクラブの会員が多くなれば、それだけ乙女高原の保全に対するファンクラブの発言力が増します。まわりの方をファンクラブに『巻き込む』ことも乙女高原を守る活動の一つです。まわりの方にファンクラブをお勧めください。

乙女高原ファンクラブに入会するには・・・「入会します 氏名・郵便番号・住所・電話番号」というフックス、メール、手紙等を事務局までお届けいただければ、いつでも、だれでも会員になれます。

- ・入会金も年会費もありません。乙女高原を守る力が1人分、大きくなります。
- ・普通会员には年4回、サポーター会員には年1回、ニュースレターが届きます。

今号は普通会员のみにお送りしています。

■乙女高原ファンクラブへの連絡先■

【事務局】植原 彰(方) 〒404-0013 山梨県山梨市牧丘町窪平 1110-3

TEL/FAX 0553-35-3682 電子メール otomefc@fruits.jp

※会報への原稿や写真等の投稿もこちらにお送りください。

WEB <http://fruits.jp/~otomefc/>

●郵便振込● (番号)00220-8-71093 (加入者名)乙女高原ファンクラブ



ホームページ



観察ブログ



活動ブログ



乙女高原後援会
フェイスブックグループ